

# 第1回 臼杵市総合計画審議会【会議録】

## 【概要】

日時	令和6年10月3日(水) 15:00~16:10
場所	臼杵市役所 臼杵庁舎 2階 全員協議会室
出席	(審議会委員) 吉村充功、疋田忠公、三重野猛志、平松愛子、道脇慎一郎、廣戸英吉、利光京子、 吉良秀代、堀京子、竹村仁、神田寿恵、飯田雄二 ※欠席:内藤康弘、梅田徳男、小手川強二 <b>委員15名中12名出席</b> (臼杵市) 事務局:秘書・総合政策課 中野市長 課長 安東信二、課長代理 狭間隆則、主査 海士野大樹、主査 塩月勇輝、 主任 板井龍法、主任 太田朱子

## 【会議録】

**※ 今回は説明・報告事項がメインのため決定事項はありません。**

### 1 開会

< 臼杵市総合計画条例の規定により「半数以上」の出席を認めたため、本審議会の成立を確認 >

### 2 委嘱状交付

< 中野市長から吉村教授へ委嘱状交付 >

### 3 市長挨拶

市長

こんにちは。

本日は大変お忙しい中にもかかわらず、臼杵市総合計画の第1回審議会を開催したところ、多くの委員の皆様方にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

皆様方には、平素から市政全般につきましても、特段のご理解やご協力をいただいていることに対しまして、改めて御礼を申し上げます。

さて今年度は、本市は記念すべき節目の年であります。ご案内のように平成の大合併があり、臼杵市は、旧臼杵市と旧野津町が平成17年1月1日に合併をいたしました。それからちょうど来年の1月1日で20周年を迎えます。合併した最初の10年間は、第1次総合計画では、「日本の心が育つまち～たくましさと温もりをめざして～」という将来像のもと、新市としての一体感を作り、それぞれの地域の特性を生かしながらまちづくりを進めてきました。特に、この新臼杵市の合併は、県のモデルに逆らった、自主的な合併だったということもあり、やはり最初10年間、このような総合計画のテーマのもと、「この合併が確かな選択であった」と、市民の皆さんに評価していただける10年間にしようという気持ちで頑張ってきました。

次の10年間、第2次総合計画は、「日本の心が息づくまち臼杵～『おだやかさ』と『たくましさ』を未来へつなぐ～」という将来のもと、臼杵の資源を活かしたまちづくりを通して、持続発展する「住み心地一番の臼杵」をつくるということで取り組んできました。

そして、これから皆様にお願ひする、第3次総合計画は、これから10年先を見据えながら、どのようなまちづくりを行うのが臼杵にとって一番いいのかということ、皆様方にご意見を伺いながら、まとめていきます。

私が言うまでもありませんが、これから10年は今まで以上に、想定を上回るスピードで進む全国的な人口減少による縮小社会、避けられないダウンサイズの中で、小さくなるけど、満たされる生活をどのように作っていくのかということが大きな課題であろうと思っています。また、気候変動により多発する自然災害。今年も、台風10号が8月末に発生しました。強靱化、頻発化、いろんな形で大きな災害が起こるときに、市民の生命、身体、財産を守るように、どのように取り組んでいけばいいのかということも大きなテーマになると考えております。また、デジタル化による社会構造の変革が考えられます。先ほど言いましたように、人口減少の中で、例えば、市役所自身の職員も増やすということはなかなか難しい中で、市民の行政需要は減るってということはないと思います。そして高齢化すれば、なかなか市役所の庁舎まで来て、色々なサービスを受けるよりも、むしろデジタル化を行い、行政の事務が進んで地域の方に結びついていくということが大きな課題になるんじゃないかと思っていますので、その辺についても、ぜひご検討いただきたいと思っています。

そのようなことを通して、本当に「住み心地一番のまち」、臼杵に住み続けたい、臼杵に住みたいまちづくりを、10年先を見据えて、ぜひ皆様方にご検討いただきたいと思っています。

いかに社会が変わろうと、我々頑張って住んでいる市民の皆さんが、暮らしの中で幸せを実感できる臼杵市がどのようにしたらできるのか、ということをご検討していきたいと思っていますので、ぜひ皆様方のお知恵をいただければと思っています。

本審議会は、全体で4回を想定しております。委員の皆様方に置かれましては、これからの10年を念頭に、それぞれの分野の立場から忌憚のない活発なご意見、ご提案をいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

結びになりますが、皆様方のこれからのご健勝と、ご活躍をご祈念いたしまして挨拶いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### 4 会長選出 ※臼杵総合計画条例第4条第4項に基づき会長選出

<日本文理大学副学長・教授吉村委員が会長に選出された>

#### 5 会長挨拶

会長

皆様改めまして、こんにちは。

ただいま皆様方のご同意におきまして、本審議会の会長に推挙いただきました、日本文理大学の吉村でございます。どうぞこれからよろしくお願ひいたします。

総合計画審議会の開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

本審議会は、市の10年の計画ということで、市の中で最上位計画ということになります。先ほど、中野市長からもありました通り、これからの10年のまちづくりの中で、やはり人口減

少、この中で、どうやって市の魅力を高めていくか、皆様方の暮らしを豊かにしていくかというすごく難しい局面ですけども、これについては、「縮小社会で先がわからない社会だからこそ、わくわくするよね」と、「いろんなことチャレンジしていこうよ」と、よく本学の学長も学生たちによく言っています。まさに、チャレンジしてわくわくできる幸せを実感できるような臼杵市にしていけるように、皆様のお知恵をお借りしながら、いい計画を作り上げていければと思っております。

また、この計画策定にあたりましては、公募された市民の方を中心に市民ワークショップなどの参加型で、ご意見も取り入れて作り上げるということもお伺いしていますので、すばらしい計画ができればと思っております。

ぜひ皆様方の忌憚のないご意見をいただきまして、暮らしの中で幸せを実感できる、先ほど市長も言われた通りの計画ができればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。簡単ですが、ご挨拶とさせていただきます。

## 6 職務代理者の指定 ※臼杵市総合計画条例第4条第6項に基づき会長より職務代理者の指名

<会長より職務代理者として、臼杵市社会福祉協議会副会長の三重野猛志委員を指名>

## 7 諮問

<市長から会長へ諮問>

## 8 臼杵市総合計画審議会について

事務局 <資料に基づき経過報告>

会長 それでは、皆様方からご意見を伺いたいと思うのですが、今日は第1回ということで、特にまだ素案ができてる段階でもないのので、ぜひ皆様方のそれぞれの関わりのある分野の現状であるとか、将来展望、どのような課題があるということをご報告いただきたいと思っておりますので、1人2分弱ぐらいしかありませんが、ぜひ一言ずつご発言いただければと思います。

委員 私は社会福祉協議会で民生委員の代表をしておりますので、福祉の分野でお話をしたいと思えます。臼杵で、やはり一番いろいろ研修とか来て感心されるのは、臼杵の“うすき石仏ねっ”の取り組みです。特に、“ちあぽーと”については、0歳から18歳まで1ヶ所で完結するというので、他市から来た人に、非常に感心されます。

ただ、民生委員で地区を回っていたら、やはり高齢化。そして、ここにありますように、地域コミュニティでの繋がりや22ページにあります繋がりや集まりを大切にしなければ、非常に屋根は立派なものもできて、高齢化率が臼杵は42%ですから周辺部はもう50%60%になり過疎化が進んでるので、その地域コミュニティをいかに活性化していくかというのが、福祉の面から見ると、大きな課題だと思います。

委員 臼杵市の消防団の団長ということで、消防の方から言わせてもらえば、今年の日向灘の地震のときに、南海トラフの緊急情報があり、ちょっと緊張感が走り、1週間非常に大変な思いをしたんですが、大きなことはなく幸いでした。そのようなときに、本当に思ったのが、南海トラフというのは、「来るぞ、来るぞ」と言いながら、そうではないんじゃないかというような

気がありましたが、あのときに、1週間以内というようなことがあり、私だけでなく、市民の皆さん、いろんな方がより身近なものであることや、切迫した感情で南海トラフのを感じたと思います。我々の消防団も、市と消防署と一緒にあって、防災士の方々とも連携を組み、備えていかなければと思っております。

19ページのアンケートの中でも、災害に強いまちをつくるということが、どの世代でも関心を持っており、特に市民アンケートでは、2番目の順位で挙がってます。心強いことで、そういうことを、実際にどういう形で、やっていくかということ、インフラのこともそうですが、人の繋がりというのは、今、特に言われてます。共助を行っていますけども近所が大事だということをよく言われます。そういう横の繋がりを大事にしていくことが、喫緊の課題だと思っております。

佐伯、津久見、臼杵と沿岸部であるので、まず一番に、津波ということが考えます。そのため、我々の中で、どういったときにどのような行動をすれば良いかというようなことも、具体的に案として、考えて作っていくというようなことも大事ななと思っております。机上でやることは簡単ですが、それが実際にどういうふうになれば、効果が生まれるかということも、ただ「やった。もっと。」では意味がないので、そういうことを皆さんの知恵を借りながら、早急に1つでも2つでも前に進めないといけないかなということは、思っております。

委員 私は、女性防災士の立場からです。

男性の防災士の方と一緒に活動していますが、近年、災害は台風や大雨など、もう昔に比べてもとっても身近なものになりました。災害は人任せにせず、もう自分のこととしてとらえて、“自分の命は自分で守る”というような信念でいかなければいけないなと思っています。皆さん方のお宅の方でも、非常食や災害用品を揃えていただいて、トイレとかは、もう特に揃えていただいていると思いますが、揃えていただくだけでなく、例えば、防災食を避難した時に食べるのではなく、普段から食べて、味わって、なくなったらまた新しいものを1つローリングストックしていただき、そういう食事も普段から食べ慣れておいて欲しいなと思います。

あと、女性の方の立場からですが、避難時に男性側の視点で避難所とか開設される面が多いので、女性の方を多く入れてもらって、女性、高齢者、子どもの目線で避難者を開設していただきたいなと思っております。

委員 農業のことです。

猿の被害にとっても困っています。市役所に行っても、「猿は仕方がない」という程度で、何も対策してくれない。ピーマンとか作っていると、もう畑全部を食べられる。轟音機をつけても、周りに迷惑をかけるし、何かいい方法を考えていただきたいんですが、個人では絶対できません。何を言っても、山沿いの田畑はもう、全部取られてしまい、自分の畑がありながら、他の地区に出ていけないとならない状況なので、何かいい対策があればお願いしたいと思えます。

委員 私からは、4つあります。

本年度、こども家庭庁が設立され、“こども大綱”が出ました。

“こども大綱”の中を見ますと、国が進める施策が臼杵市の施策と似ているというか、臼杵市が先に始めているものを国が追いついているのかなと思うほど、子育て支援はとても保護者の方も満足いかれてるのではないかなということで、こちらはお礼を申し上げたいと思えます。

2つ目としまして、私は、今回の市民ワークショップに参加させていただきまして、その中で

一番出たのが、自分の子どもたち、自分の孫たちのために、まちづくりをしたいという意見でした。自分よりも、次の世代にということで、次世代をつなぐまちづくりというのは、やはり子育て支援であり、教育力がそこに進むのかなと思っております。

3つ目としまして、活力あるまちづくりとして、先ほどの会議で、大分銀行の支店長がおっしゃってましたが、臼杵には素晴らしいものがたくさんあり、そこに企業誘致をすれば解決するのかというのではなく、ただ、隣市に行くにはとてもアクセスがしやすいこの立地条件があるので、仕事はもし他市であっても、居住地は臼杵であるという、住みやすい臼杵をめざしていただきたいなと思っております。

最後になりますけれども、減災の考えからです。本当に災害というのはいつ起こるかわかりません。いつ、能登のように、臼杵市はなるのかもしれない。そうしたときに、やはり高台に居住地など、住宅の区画整備が進めば、もっと若い方が住みやすくなるのではないかなと思います。臼杵の消防の力というのはとても大きくて、消防署に行ってもすばらしいと思うんですが、まず自分たちがどういうふうな生き方をしないといけないのかっていうのを、もう一度市民ですね、お示しいただきたいなと思います。

委員 今自治会組織で、地域コミュニティの活性化ということで、各小学校区18の振興協議会があります。それを中心に、これから取り組んでいかなければいけないんじゃないかと思っております。このアンケートにあるように、高齢者が生き生きと安心して、生活できるところ、また安心・安全な暮らしを守る、防犯や交通安全、そういう問題も含めて、またみんなが繋がりが合える地域交流拠点として、災害に強い組織づくり、文化を守り、伝承する必要があります。自治会の取り組みが大変多いと思いますが、これも、自治会の活動かなと思っております。また自治会は、高齢化が進んでおり、なかなか役員のなり手がいないという現状で、これからの課題になってくると思っております。

委員 今後はどんどん人口が少なくなってくるのと一緒に、やはり、PTAに関連する保護者の集まりがなかなかできなくなってきており、子どもたち、親子で地域の方と楽しく活動ができるような場所があれば、もう少し新しく活動ができていくと思いました。

委員 私、漁師の気持ちでしゃべらせてもらいます。

台風が来るたびに、遠浅みたいな感じで臼杵の海はあまり水深が深くないので、沖の方の砂が舞い上がり、丘の方に来て、磯場がみなつぶれてきてます。それを考えると、先ほど消防の人がおっしゃったように、南海トラフなど、沖ぐらいに消波ブロックを置いてもらえれば、市民も助かり、漁師も助かるので、そのようなものを考えてくれたら、利用者としては嬉しいし、市民も守ることになると思います。よろしくお願いします。

委員 主任児童委員の主な活動の1つに“赤ちゃん訪問”というのがあります。“ちあぼ一と”にお世話になりながら、“赤ちゃん訪問”へ来ていいですよと言われた方に、地区の担当が訪問するんですが、先ほどもありましたように、出生数が150を切っていて、“赤ちゃん訪問”で「来ていいですよ」という人が、3分の1、50から60人になります。そこがもう少しうまくつながらないかなというのが、私たちの課題の1つでもあります。臼杵市、地域も含めて、子育てを応援してますよということは、一緒に進めていっていただきたいなと思ってます。

アンケートの説明を見たとき、さっきもありましたが、中高生のアンケートを見て、いい子たちだなって思いました。臼杵が好きというのと、どんなまちになって欲しいかの中に、健康とか入れてくれていて、お年寄りのことを考えてくれてるのかなと思い、こんな人たちが、臼杵に行きたい住みたいと思う形になるように、これから一緒に考えていけたらと思います。

委員

私は医療の観点からお話させていただきます。

僕自身はコスモス病院があと50年、あの場所にちゃんとあって、医療ができるのを目標にしております。やっぱり難しい手術ですが、うちではそんなにできません。肝臓切ればすごい出血しますし、大変な医療材料がいります。ただ、高齢者の骨折したのはうちで治療できます。高齢者が慢性疾患を急性憎悪したのはうちでやります。大分までいなくても、奥さんがうちにお見舞いに来ることができます。そういう医療を、臼杵の中でちゃんとしていくっていうことを、やっていきたいと思います。また、急性期をある程度治療できる病院があるということをしていきたいというふうに思ってます。

また、開業医の先生方も年齢が高くなってきていますし、人が少なくなってきているのもあるので、そういうところにうちの専門職や事務員などを派遣してですね、人材をシェアしながら医療を継続できるようにしていけたらいいのではないかなと思っています。そのような意味で言うと、僻地の医療として、神野の方とかの方に訪問することも、もちろんできますが、やはりだんだんきつくなるのが目に見えてますので、なるべく八町大路の周辺とかに、高齢者も子どもたちも、それから「つくみん公園」に負けないような遊具が整った施設があって、そういうところに人が集まって、介護や教育、子育てがしやすいような、スモールシティのような形でやれるのがいいんじゃないかなというふうに、考えています。

委員

先ほどもあったように、私もアンケートを見て、郷土愛に満ちた中学生や高校生が多いなというふうに驚きました。私自身は実は大分県竹田市出身で、父も母もまだいるんですが、高校のときに、やはり一番友達や親と話す中では「働く場所がないな」ということでした。その中で、みんな竹田から出て行き、もちろん帰ってきた人もいますが、そういった中で、やはり働く場所がないと、先ほどもありましたように、竹田には小児医療とか産婦人科医療と、非常に困難な状況になってきてます。そういった中でやっぱり人が住む、基盤が整わない。そのためにはやはりその人口減少を緩めるために、今回アンケートの中で3番にきてますけど、やはり移住・定住の部分の評価という観点から2点、お伝えできればと思います。

まず1点目は、地域外からお金を稼いで市の財政を強化する。そのためには観光業の優先した充実が必要と思っております。

2点目は、地域内でお金を回す。そのために、既存の産業の活性化というところが、この中学生高校生の将来を支えていくために、非常に重要なのではないかと考えております。

特に、臼杵市には大分県内でも断トツのトップの分野が醸造業、造船業、そして運送業、この3つの会社は大分県内でもその売り上げにおいて、シェア、圧倒的にトップのところがあります。さらに、漁業や農業、野津の農業は非常に充実したものがありますので、ここの既存事業を強化することで臼杵市内の中でお金をまわしていくというような体制を作っていくことが、今後の10年においては重要と考えております。

会長

皆さんありがとうございました。

すごい短い時間の中でいろんなご意見をいただきまして、ありがとうございました。

もう時間が来ているところではありますが、私からも、今日、皆様方のそれぞれの分野からお話を聞きながら、皆様方自身が、市民の方々が非常に自分ごとでまちづくりを広くとらえられていて、自分たちが、何ができるのかというところをすごく熱心に考えてるんだなということは、すごくこの市のある意味強みだなと思いながらお伺いさせていただきました。

また、やはり子どもを守る“次世代”という言葉もすごく出てきて、そこに対しても子育てだったり、教育だったりということも含めて、あと防災意識もすごい大事だなというところが出てたなという所感を持ちました。

ぜひ、この総合計画の素案を作っていくときには、そのような自分ごとは、まさに市民の主役のまちづくりのことだと思うので、そこは押し出していけるような施策素案にさせていただくといいなと思いました。一方で、やはり市民の自主的な部分で足りないところを、しっかり市が支援していくというような形ができればと思います。特に、今日はそういう立場の委員もいませんが、やはり社会基盤で道路とかまちづくりのところでも、決してハードだけではないとも委員の方からも出てましたので、やはり作った後それがどう活かせるかっていう視点も、ものすごく大事だと思いますので、そのようなところで素案づくりにつなげていただけるといいのかなと思いました。

では時間が来ておりますので、本日、皆様から貴重なご意見いただきまして、ありがとうございました。では事務局の方をお願いしたいと思います。

## 9 その他

事務局 | <連絡事項> 次回は令和7年3月末頃を予定

## 10 閉会

事務局 | <安東課長より閉会の挨拶がなされた>